

広島県

定数：8名

立候補者数：10名



氏名 谷口 亮治
氏名ふりがな たにぐち りょうじ
都道府県士会 広島県
年齢 58
勤務先名称 広島市立北部医療センター安佐市民病院

日本理学療法協会活動歴

平成26年～ 日本理学療法士協会 代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

| | | |
|-----------|-----------|--------|
| 平成19年～27年 | 広島県理学療法士会 | 事務局長 |
| 平成28年～31年 | 広島県理学療法士会 | 広島北支部長 |
| 令和元年～4年 | 広島県理学療法士会 | 監事 |
| 令和5年～ | 広島県理学療法士会 | 副会長 |

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

広島県理学療法士会員の皆さまには、日頃より温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

私はこの度、2026年度 日本理学療法士協会代議員に立候補いたします。
超高齢社会の進行や循環器病対策基本法の施行を背景に、理学療法士に求められる役割は、医療機関内にとどまらず、予防・地域リハビリテーション・生活支援へと大きく広がっています。今後は、専門性を生かしながら、地域の実情に即した医療・介護・予防が切れ目なく提供される体制づくりが、より一層重要になると考えています。
これまで私は、県士会役員および日本理学療法士協会代議員として、代議員総会における情報収集と意見交換を通じ、制度動向や協会方針を現場に還元するとともに、広島県理学療法士会の課題を公正かつ公平に判断する役割を担ってまいりました。
また、地域に根ざした活動と次世代育成の両立を軸に、行政・関係団体・各支部との連携を大切にしながら取り組んでまいりました。

今後も引き続き、

- ・地域医療・介護・予防分野における理学療法士の役割を社会に発信すること
- ・若手・中堅理学療法士が安心して学び、成長できる環境づくりを推進すること
- ・多様な働き方を見据え、持続可能な理学療法士の活動基盤を整えること

これらを意識し、現場の声を協会へ、協会の動きを現場へと丁寧につなぐ代議員としての責務を果たしていきたいと考えております。

会員の皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



氏名 平田 和彦
氏名ふりがな ひらた かずひこ
都道府県士会 広島県
年齢 46
勤務先名称 広島大学病院

日本理学療法協会活動歴

令和8年度診療報酬改定に向けた検討会 構成員（2024年6月～2026年6月）
認定・専門理学療法士制度検討部会 部会員（2024年11月～2026年6月）

都道府県理学療法士（協）会活動歴

広島県医療リハビリテーション支援体制推進委員会 執行委員
（2024年12月～2025年3月、2025年12月～2026年3月）
広島県理学療法士会スクールトレーナー推進委員（2024年9月～2027年6月）

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

私はこれまで、大学病院の中でリハビリテーション部門に求められる役割を果たすため、臨床業務を行うだけでなく、チームづくりと人材育成を基盤とした組織運営に取り組んできました。その過程で強く感じてきたのは、理学療法士が高い専門性を発揮できるかどうかは「個人の努力」だけでなく、組織の構造、チームづくり、人材育成の仕組みといった要因に、大きく左右されるという現実です。

私は、部門の成果を可視化し病院執行部へ伝えることでリハビリテーション部門の拡充を図り、組織として成果を出せる体制を整えてきました。「成果を出せるチーム」をつくることで院内での認知が高まり、外部評価が向上し、それがさらに人材を呼び込み、成果へとつながる—そうした人材・組織・成果が循環する構造の重要性を実感してきました。

また、理学療法士の人材育成システムの構築にも継続して取り組んでおり、広島県内のどの地域においても質の高いリハビリテーションが提供されることを目指して、プログラム開発とネットワークづくりを進めています。

これらの経験を通じて、理学療法士の専門性を社会に還元していくためには、個々の努力に依存するのではなく、成長を支える仕組みと環境を職能団体として整えていくことが不可欠であると考えようになりました。日本理学療法士協会においても、より魅力ある理学療法士の人材育成システムの構築が、職能全体の質の向上と社会的信頼の基盤になると考えています。

私は現場で組織づくりと育成に取り組んできた理学療法士の一人として、その経験をもとに、現場と協会をつなぐ役割を担い、新たな人材育成の仕組みづくりに貢献していきたいと考え、代議員に立候補いたします。



氏名 高橋 哲也

氏名ふりがな たかはし てつや

都道府県士会 広島県

年齢 62

勤務先名称 島谷病院

日本理学療法協会活動歴

平成22年11月～現在 日本理学療法士協会代議員
令和元年6月～令和2年3月 協会・学会連携強化検討小委員会委員
令和3年6月～令和7年6月 地域包括ケアシステム推進部会
令和7年6月～現在 介護予防領域業務推進部会

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成15年6月～平成20年6月 広島県理学療法士会地区理事
平成20年6月～平成30年7月 広島県理学療法士会副会長
平成30年7月～令和元年6月 広島県理学療法士会会長
令和元年6月～令和5年6月 広島県理学療法士会副会長
令和5年6月～現在 広島県理学療法士会監事

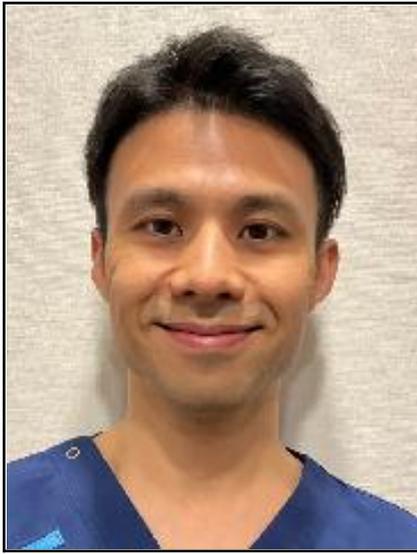
学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

理学療法士を取り巻く環境は、労働人口の減少や急速な高齢化などにより、大きく変わりがつあります。医療・介護の現場だけでなく、地域での健康づくりや予防の分野においても、理学療法士の専門性が求められる場面は確実に広がっています。一方で、「この先、自分たちの働き方や立場はどうなっていくのだろう」と、不安を感じている若い世代も少なくないのではないのでしょうか。そうした中で、協会会員の組織率が低下している現状は、理学療法士全体の声が社会に届きにくくなる要因であり、将来を見据えるうえで大きな課題だと感じています。

私はこれまで、県理学療法士会や地方ブロック理学療法士会の監事、日本理学療法士協会代議員としての活動に加え、地域包括ケアに関する検討部会に関わり、協会の動きと現場の実感、その両方を見てきました。その中で、日々の業務に追われる中で抱く疑問や不安が、十分に共有されないままになっている現状も感じています。

今後も代議員として、会員一人ひとりの声に耳を傾けながら、理学療法士の専門性が正しく評価され、将来に希望を持てる環境づくりに取り組んでいきたいと考えています。特に、処遇改善や働き方、職域の広がりに関する課題については、現場の実感を大切にしながら、協会へ丁寧に伝えてまいります。皆様と協会をつなぐ身近な代議員として、誠実に役割を果たしてまいります。



氏名 岩本 義隆
氏名ふりがな いわもと よしたか
都道府県士会 広島県
年齢 35
勤務先名称 広島大学病院

日本理学療法協会活動歴

特記なし

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2014年－2021年 広島県理学療法士会、教育局 部員
2021年－2023年 広島県理学療法士会、理事（教育局 新人教育部長）
2022年－2024年 第36回中国ブロック理学療法士学会、運営局長
2023年－現在 広島県理学療法士会、理事（事務局 総務部長）

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2023年－現在 日本運動器理学療法学会、「運動器理学療法学」査読委員
2025年－現在 日本運動器理学療法学会、評議員

立候補の趣旨

はじめまして。広島大学病院診療支援部リハビリテーション部門において理学療法士として勤務しております、岩本義隆と申します。私は日々、臨床業務に従事しながら広島県理学療法士会では理事を務めさせていただいており、現在3期目となります。会員の皆さまが「入ってよかった」と思える県士会を目指して、日々活動しております。しかしながら、生涯学習制度の仕組みなど都道府県士会の理事ではどうしてもできない問題に直面することが多くなってまいりました。また、年々減少する新入会員や増え続ける休会／退会者という現状を目の当たりにし、「このままではいけない」と痛感しております。そこで、広島県の代表として皆さまの想いを日本理学療法士協会総会の場合へ届けたいと強く想い、この度代議員へ立候補させていただきました。会員一人ひとり、またその先にいる対象者にとってより実りある日本理学療法士協会を一緒に創っていきたいと考えております。よろしくお願いたします。



氏名 猪村 剛史

氏名ふりがな いむら たけし

都道府県士会 広島県

年齢 39

勤務先名称 広島大学

日本理学療法協会活動歴

2018年～ 公益社団法人 日本理学療法士協会 代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2015年～ 公益社団法人 広島県理学療法士会 理事
2019年～ 公益社団法人 広島県理学療法士会 常任理事（広報局長）
2023年～ 公益社団法人 広島県理学療法士会 常任理事（職能局長）

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2022年6月～2029年6月 一般社団法人 日本神経理学療法学会 評議員
2023年12月～2029年6月 一般社団法人 日本基礎理学療法学会 評議員

立候補の趣旨

生産年齢人口の減少による労働力減少などの本邦の社会課題に対して、理学療法士や理学療法の専門性を十分に発揮することは、理学療法士全体の将来にとって極めて重要なことと考えます。同時に、医療・保健・福祉など、様々な側面において理学療法士や理学療法の対象者が直面する課題は山積しています。理学療法士の働き方についても、多様化が急速に加速しています。

理学療法士を取り巻く環境や理学療法士の働き方が多様化する中で、安定した組織運営を行っていくためには「帰属意識」の醸成・維持が不可欠だと考えます。2018年より代議員を務めさせていただく中で、この「帰属意識」を醸成・維持するために、多様な現場や理学療法士個人と日本理学療法士協会の架け橋となる代議員が果たすべき役割・責任の大きさを痛感しております。

広島県内に所属する理学療法士や理学療法の対象となる方々の想いが少しでも日本理学療法士協会に適切に届き、その方向性に反映されるよう引き続き職責を果たす所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



氏名 甲田 宗嗣
氏名ふりがな こうた むねつぐ
都道府県士会 広島県
年齢 48
勤務先名称 広島都市学園大学

日本理学療法協会活動歴

代議員（H22～現在）
協会・士会連携強化小委員会委員（R1～2）、新組織検討委員会（R2～4）、選挙制度検討小委員会（R3～4）

都道府県理学療法士（協）会活動歴

学術局学術支部長（H15～21）、学術局学術研究部長（H21～23）、広報局長（H23～27）、副会長（職能・調査部長）（H27～R1）、会長（R1～現在）
第18回広島県理学療法士学会学会長（H25）、第31回中国ブロック理学療法士学会学会長（H29）

学会連合及び同連合会員団体活動歴

日本神経理学療法学会 運営幹事（H25～R1）、日本精神・心理領域理学療法学会（研究会） 理事（運営幹事）（H22～現在）

立候補の趣旨

以下、令和7年度代議員総会で代議員としてPT協会に要望した内容です。会員目線の事業が展開されるよう、代議員として努めています。このような要望が全て反映されるわけではありませんが、代議員の声が反映され、生涯学習システムが改正されることになりました。引き続き、皆様のご支援を賜りますようお願いいたします。

登録理学療法士は、全ての会員が取得・更新することを想定して制度設計されていると認識している。全ての会員が、更新できるよ

う、以下の改善を要求する。

- ・更新に必要な研修プログラムを統一（標準化）した内容とし、全てオンデマンドとする。
- ・オンデマンド受講は全て無料とする。



氏名 平元 奈津子
氏名ふりがな ひらもと なつこ
都道府県士会 広島県
年齢 50
勤務先名称 広島国際大学総合リハビリテーション学部

日本理学療法協会活動歴

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成19年～平成22年：広島県理学療法士会 広報局 部員
平成26年～平成27年：第20回広島県理学療法学会 企画局長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

令和3年～現在：日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会 理事
令和4年～令和6年：理学療法標準化検討委員会 ガイドライン部会 部会員
令和6年～現在：第1回日本理学療法学会連合学術総会 準備委員会 企画部員
令和7年～現在：第12回日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会学術大会
大会長（2026年11月 広島市開催予定）

立候補の趣旨

広島県内での臨床経験を経て、現在は県内の大学において20年間、一貫して理学療法士養成教育に携わってまいりました。基礎教育から臨床実習指導まで幅広く関わる中で、養成課程での学びと臨床現場とのつながりをいかに確保するかが、本職能の発展において重要な課題であると実感しております。若手が現場で感じる不安や戸惑いを軽減し、学びを実践へと円滑につなげるためには、教育と臨床が連続したものとして機能するとともに、臨床現場における上司や指導者とも情報や視点を共有し、相互に連携できる仕組みが必要であると考えております。

また、日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会の理事として、専門領域の普及や学術大会運営に携わってまいりました。これらの経験から、理学療法の専門性を科学的根拠に基づいて高めていくには、教育・研究・臨床が相互に連携し、それを支える職能団体が明確な方向性を示すことが重要であるとと考えております。

代議員としては、教育と臨床をつなぐ視点を協会運営に反映させ、若手が安心して研鑽できる環境づくりと、指導者が過度な負担を抱えることなく、効率的かつ効果的に教育に携われる体制の整備に貢献したいと考えております。加えて、地域の声を丁寧に汲み取り、会員が協会に属する意義を実感できる運営に寄与してまいります。教育現場と学術活動の双方で培ってきた経験を活かし、現場に根ざした視点から、持続可能な職能団体の発展に誠実に取り組んでまいります。



氏名 田原 岳治
氏名ふりがな たわら たけはる
都道府県士会 広島県
年齢 46
勤務先名称 キッズさぽーと y u i

日本理学療法協会活動歴

代議員 2024年度～2025年度
代議員ネットワーク支援部会員 2025年6月～2026年6月

都道府県理学療法士（協）会活動歴

広島県理学療法士会 職能局職域部長
2023年6月17日～現在
広島県理学療法士会 事務局広報部部員
2023年7月11日～2025年6月20日 / 2025年7月15日～現在
広島県理学療法士会 広報局普及推進部部員
2021年6月21日～2023年6月16日
広島県理学療法士会 広報局会員情報部部員
2021年6月21日～2023年6月16日
石川県理学療法士会 公益事業部 副部長
2007年年度～2008年度

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

私は、社会に理学療法士を活用してほしいと思っています。
理学療法士は、医療から始まり、現在は介護、福祉、また公的保険を用いない事業にも飛び出した理学療法士もたくさん生まれました。
私は、これらの理学療法士すべてが社会でもっと活躍できるように、また社会が理学療法士をもっと活用できるように、代議員として活動します。
理学療法士同士が協力し、理学療法士として活躍できる、そんな我々の結びつきを強くするような理学療法士会であってほしいと願います。
理学療法士会が我々の結びつきを強くするような取り組みを行えるよう、代議員として促します。



氏名 細井 俊希

氏名ふりがな ほそいとしき

都道府県士会 広島県

年齢 57

勤務先名称

日本理学療法協会活動歴

代議員（2023 - ）

都道府県理学療法士（協）会活動歴

埼玉県理学療法士会理事（2011 - 2020）
広島県理学療法士会理事（2021 - 2023）

学会連合及び同連合会員団体活動歴

日本予防理学療法学会理事（2022）

立候補の趣旨

2002年に理学療法士となり、埼玉県理学療法士会で教育局長・副会長、ならびに代議員を務めました。2020年の転居と共に広島県理学療法士会に異動し、2021年理事に立候補し、学術局／学会部長を務めました。また、日本予防理学療法学会の理事を務めました。前回の代議員選挙で代議員に選出いただき、現在も代議員を務めています。

埼玉県理学療法士会時代は、代議員と理事と会員との距離を縮めるため、なるべく対話ができるような機会を設けるよう努めてきました。2020年に広島に来て、会員と理事・代議員の距離が遠いなと感じたので、まずは理事に立候補し理事となり、私自身が広島県理学療法士会のことを把握しながら、どうすれば会員の方々の距離を縮めることができるかと考えました。会員の方と理事との対話の場づくり、できれば対面で、難しければホームページなどで会員の方々が率直な意見を言うことができ、できるだけ双方向で対話することができる環境づくりができるといいなと思っています。

代議員の役割は、会員を代表して会員の声を日本理学療法士協会にしっかり届け、協会の取り組みに反映できるようにすることだと思います。代議員になったら、代議員として、また一会員として会員の方々と対話し、声を届けられるようなしくみづくりをできればと思っています。



氏名 山口 雅子
氏名ふりがな やまぐち まさこ
都道府県士会 広島県
年齢 59
勤務先名称 広島パークヒル病院

日本理学療法協会活動歴

H14～H25 教育局生涯学習部部員
H25～H27 生涯学習業務執行委員会企画研修小委員会委員
H19～現在 代議員
R2～現在 認定理学療法士臨床認定カリキュラム審査部会部会長
R5～現在 役員報酬等委員会委員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

H13～H27 理事：学術局長・教育局長（～H17）、副会長（～H27）
H27～R2 監事
H19 第21回中国ブロック理学療法士学会 学会長
H21～R3 中国ブロック理学療法士会 学会評議委員会委員、H25～委員長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

代議員に立候補いたしました山口雅子と申します。
私は、高齢者の医療・介護サービスを担う病院・介護事業所において、リハビリテーション部門の管理運営に携わっております。多様な価値観や人生観を持つ幅広い年代のスタッフとともに働く中で、多くの刺激と学びを得ながら、人材育成や働き方に関する取り組みを続けています。
気がつけば会員構成の中でも上の世代となり、次の世代へ引き継ぐ時期を意識するようになりましたが、もう少しだけ現場の一会員としてお役に立てればと思い、引き続き立候補いたしました。
代議員は、総会での討議・議決や役員選挙の投票など、会員を代表する重要な役割を担っています。様々な職域・規模・立場で活動する会員から代議員が選出されることが望ましいと考えておりますが、現状では都道府県の役員を兼任されている方が多く、女性代議員も少ない状況です。広島県の代議員定数8名のうち、複数の女性が選任されることを願いながら、私もその一人として責務を果たしていきたいと考えております。
中小規模の医療・介護現場で働く会員の一人として、精一杯努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。